

# 忠

六年

画数 口 中 忠  
筆順

オ ン チ ユ ウ

成り立ち

♡ ↓ ㊦ ↓ ㊧ ↓ ㊨ ↓ ㊩ ↓ 忠

「中」という字と、「心」という字とを組み合わせて作った字です。

どんなに悪い事をする人でも、「心の中」では、それで良いとは決して思っていないものです。朝寝坊でも、「心の中」では「早起きたい」と思っているのです。このように、だれでも、「心の中」には、物事の良い悪いを判断し、良い事をしたい、りっぱな人になりたい、という心が働いています。

その心を「良心」と言い、「真心」と言います。忠とは「真心」という意味の字です。例 忠実、忠信、忠言、忠告、忠誠。

特に「主人や国に対する真心」の意味に使うことがあります。例 忠臣、忠勤、忠義、忠魂。

使い方

▽孔子のことは、「良薬は口に苦いが病気にはよく利く。忠言は耳に痛い、自分の行いのために良い」とあります。友だちの忠告はありがたく思って、受け入れるようにしたいと思います。

▽宮城二重橋の近くに、忠臣楠正成の馬に乗った銅像があります。

熟語例

▽忠言（人のためを思って、真心から言う忠告の言葉）

▽忠告（その人のためを思って、真心から、欠点や悪い所をいさめ告げること。また、その言葉のこと。）

▽忠実（物事を真心こめて行い、真実みがあること。誠実なこと。「まじめ」なこと。）

▽忠臣（国のために真心こめて尽くす人のこと。「忠義な臣下」という意味の言葉）

▽忠義（国のため、または主君のため、真心こめて尽くすこと。）

▽忠勤（忠実に勤めること。）

▽忠魂（忠義を尽くす心。また、忠義を尽くして死んだ人の霊魂。）

使い方

▽わたしの学校に、ある著名な作家が講演に来たことがあります。その作家は、昔わたしたちの学校を卒業したのだそうです。それをきっかけに、その作家の著書を読むようになり、今では愛読書になりました。

▽ぼくのおとうさんは、著述業です。色々な雑誌に随筆や評論を書くのが仕事です。仕事が忙しい時は、大変です。食事も抜きて、原稿を書いています。

熟語例

▽顕著（著しく目立つこと。「この絵には印象派の影響が顕著にあらわれている」などと使います。）

▽著名（名前が著しく知れ渡っていること。「有名」という意味です。「各界の著名人の集まり」などと使います。）

▽著作（本を書き著すこと。また、書き著した本。「○○氏の今度の著作を読みましたか」などといつかいます。）

▽著書（書き著した本）

▽著述（本を書き著すこと。また、その本）

▽著者（その本を書き著した人）

# 著

六年

画数 艹 著  
筆順

オ ン チ ヨ

成り立ち

🌿 ↓ 著 ↓ 著 ↓ 著 ↓ 著

容器から物が大きくはみ出した形を表し、「物の「いちじるしく」多い」ことを表した「著（年319）」と、「草の意味の「」とを組み合わせて作った字です。

庭などに雑草が「いちじるしく」はびこった様子を表した字ですが、今は、単に「いちじるしい」という意味に使われています。例 顕著。

「いちじるしく目立つ」という意味にも使われます。例 著名。

また、「目立つ」＝「現れる」ことから「現す」意味に使われ、「本を世に出す（世に現す）」意味にも使われるようになりました。例 著作、著書、著述、著者。